

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容			
0 相談支援事業所の概要		昨年度				今年度			
0-1 実施状況について									
	法人名称	非営利活動法人 日常生活支援ネットワーク							
	法人所在地	大阪市敷津東3-6-10							
	事業所名称	自立支援センターOSAKAほらんぼらん							
	事業所所在地	大阪市敷津東3-6-10							
	電話番号	06-6649-0421							
	ファックス	06-6649-0421							
	実施曜日	月～金							
	実施時間	9:00～17:30							
	同一場所で実施しているその他の事業	居宅介護（3F）、生活介護（1F）				左記事業に加え、就労支援事業B型（多機能型）			
	実施法人で実施しているその他の事業	放課後等デイサービス・児童発達支援							
	事業所の特長	当事者性を重んじてスタッフが相談・カウンセリングに応じている。当事者として同じ目線で話を聞ける。他区から断られたケースの相談も引き受け孤立を防いでいる。季節ごとに障がい者の方が地域の方と触れあうイベントを行い、繋がり作りを重視している。							
0-2 事務室等について		昨年度				今年度			
	事務室	145.96㎡	<input checked="" type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
	相談室	19㎡	<input checked="" type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
	その他		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
0-3 職員の状況		昨年度				今年度			
		常勤職員		非常勤職員		常勤職員		非常勤職員	
		専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務
			4人		3人				
0-4 職員の勤務体制		昨年度				今年度			
		管理者兼相談支援専門員1名（視覚障がい者）相談支援専門員3名（うち2名電動車いす）職場介助者・事務職員3名（非常勤）月曜～金曜日の開所時間内に当事者スタッフ4名、非常勤の職場介助者と事務職員（3名）相談支援を行っています。				上半期は昨年度と同じ体制で活動。下半期に入り10月末に相談支援専門員（電動車いす）が1名、定年退職。計画相談も含め体制が薄くなるリスクが生じるため、新しい相談支援専門員の確保していくことが課題。			
0-5 ピアカウンセリングの実施状況		昨年度				今年度			
		障がい名	実施曜日	実施時間		障がい名	実施曜日	実施時間	
		全障害 (身体・知的・精神・重複等を含む)	月曜～金曜	9:00～17:30					

事業所名	浪速区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1 事業運営全般	昨年度	今年度
1-0 理念・基本方針	<p>情報社会と呼ばれる社会の中にあっても、制度や法で保証されているはずの「福祉」について、どこで何を言いにいけばいいのか知らない、どんなものがありどう使えばいいのか、そして自分の人生そのものを他人の手にゆだねて生きている感の障がい者の現状と問題は依然として続いているというのが、当センターのこれまでの活動を通じた実感です。</p> <p>自立支援センター・OSAKAぼらんぼらん（浪速区障がい者相談支援センター）は、障がい者自身の声を生かした介助派遣サービスをしてきたこれまでの活動の実績と経験を踏まえ、在宅福祉サービスの利用援助や社会資源の活用、社会生活力を高めるための支援・ピアカウンセリングや介助相談および情報の提供を総合的に行う大阪市障がい者生活支援事業を受託し、障がい者やその家族の地域における生活を支援し、障がい者の地域自立と社会参加を図っていくことを目的として、障がい者相談支援事業部を運営していきます。</p> <p>事業実施効果としては、以下の諸点が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長年自立生活を営んできたピアカウンセラー等の障がい当事者スタッフが、自らの経験を踏まえ個々の状況に応じた的確な相談及び行政制度や社会資源の活用などの情報提供等を行える。 ・ 諸機関の紹介を含め、障がい者支援に取り組む他機関・団体等との連携と協力することにより広範囲の中から選択肢が生まれ自分にあったサービスを選択できる。 ・ 他の障がい者の状況を掴み意欲と生活力が高まり、地域においてその人らしい自立と社会参加を促している。 ・ また障がい当事者が相談に乗り情報を提供する事で、心情や障がい者がおかれている状況を客観的にみる事ができるようになる。 ・ 障がい者の社会参加に家族の理解が生まれ、社会資源の有効な活用を促す事で、不安や負担も軽減できる。 ・ 専門分野（医療機関・旅行・福祉機器）相談には、嘱託配置をし協力体制を作っていることでスタッフの知識不足を補い、幅の広い相談にも応じられる。 <p>等々です。</p> <p>そして何よりも、もっと身近なものとして自分達の「生活」や「福祉」を取り戻しうまく活用し、一人一人が持つるパワーを引き出すことで、よりいっそう多くの障がい者が、町の中へ飛び出して体験したことを生かし、交通機関や町の構造・制度・法を暮らしやすく使いやすいものに変えていくことができるという私たちの理念を、目的でありまた効果としたいです。</p>	<p>情報社会と呼ばれる社会の中にあっても、制度や法で保証されているはずの「福祉」について、どこで何を言いにいけばいいのか知らない、どんなものがありどう使えばいいのか、そして自分の人生そのものを他人の手にゆだねて生きている感の障がい者の現状と問題は依然として続いているというのが、当センターのこれまでの活動を通じた実感です。</p> <p>もっと身近なものとして自分達の「生活」や「福祉」を取り戻しうまく活用し、一人一人が持つるパワーを引き出すことで、よりいっそう多くの障がい者が、町の中へ飛び出して体験したことを生かし、交通機関や町の構造・制度・法を暮らしやすく使いやすいものに変えていくことができるという私たちの理念を、目的でありまた効果としたいです。</p> <p>自立支援センター・OSAKAぼらんぼらん（浪速区障がい者相談支援センター）は、障がい者自身の声を生かした介助派遣サービスをしてきたこれまでの活動の実績と経験を踏まえ、在宅福祉サービスの利用援助や社会資源の活用、社会生活力を高めるための支援・ピアカウンセリングや介助相談および情報の提供を総合的に行う大阪市障がい者生活支援事業を受託し、障がい者やその家族の地域における生活を支援し、障がい者の地域自立と社会参加を図っていくことを目的として、障がい者相談支援事業部を運営していきます。</p> <p>事業実施効果としては、以下の諸点が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長年自立生活を営んできたピアカウンセラー等の障がい当事者スタッフが、自らの経験を踏まえ個々の状況に応じた的確な相談及び行政制度や社会資源の活用などの情報提供等を行える。 ・ 諸機関の紹介を含め、障がい者支援に取り組む他機関・団体等との連携と協力することにより広範囲の中から選択肢が生まれ自分にあったサービスを選択できる。 ・ 他の障がい者の状況を掴み意欲と生活力が高まり、地域においてその人らしい自立と社会参加を促している。 ・ また障がい当事者が相談に乗り情報を提供する事で、心情や障がい者がおかれている状況を客観的にみる事ができるようになる。 ・ 障がい者の社会参加に家族の理解が生まれ、社会資源の有効な活用を促す事で、不安や負担も軽減できる。 ・ 専門分野（医療機関・旅行・福祉機器）相談には、嘱託配置をし協力体制を作っていることでスタッフの知識不足を補い、幅の広い相談にも応じられる。 <p>等々です。</p>

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-1 運営体制		昨年度		今年度	
1-1-① 事業運営の評価		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	事業の理念・基本方針を実現するための具体的な取り組みを示す中・長期的な計画が定められている。	5	今年度も新しい制度の情報を把握しながら、自立している障がい者・施設に入所している障がい者・新規にサービスを受けられる障がい者、そのご家族の相談に応じながら必要なニーズ・支援へ向けて他機関・事業所との連携の強化・研修や勉強会などに参加して情報収集やスキルの向上をUPする。等目標をたてました。 毎月2回ミーティングで議題を決め、必要であれば随時会議を行う。研修に行った場合、報告会を行い皆に共有する場を設ける。	4	今年も5月末に法人の定期総会において中長期計画を基に策定した総括と方針（事業計画）を共有している。また状況の変化に応じて毎月の会議の中でそれらの進捗状況や妥当性について点検している。 毎月2回ミーティングで議題を決め、必要であれば随時会議を行う。外部研修や会議に行った場合、報告書を作成し、報告会を行い皆に共有する場を設ける。
b	中・長期的な計画を踏まえた年度ごとの事業計画を策定している。	5	今年度も同じく4月～6月ににかけて前年度の事業実施の評価や反省点を踏まえた事業計画（指定一般・指定特定・指定障がい児相談）を策定している。 前年度で立てた取り組みの中で、他機関との連携を主に支援を行うといくことは達成できてきたが、後の相談ケースを丁寧に対応していく事や、書類整理もできていないので今年度も継続して目標として行っていきたい。計画相談も増えている中、サービス利用計画の作成のみならずモニタリングの重要性と計画的に行うことを確認した。	4	前年度で立てた取り組みの中で、他機関との連携を主に支援を行うといくことは達成できてきたが、後の相談ケースを丁寧に対応していく事や、書類整理を過去分や現在の進捗状況の管理及び書類全体の精査活動を行い、引き続き改善に取り組んだ。
c	中・長期計画、年度ごとの事業計画に基づき事業を実施し、その結果を評価している。	5	今年度も前年度の事業の点検・評価した報告書をNPO法人の総会に資料提出・報告をしました。前年度と同じく行政や他機関・事業所との連携を通じた支援が増えたこと、前年度減ってきていた一般の相談が増えてきた事など、役所や他機関との防災訓練を年3回行い、その中で障がい者の方の参加を交え対応の仕方や実際に障がい者の方と地域住民の方がふれあう場を設けたことを評価されました。	4	今年度も前年度の事業の点検・評価した報告書をNPO法人の総会に資料提出・報告をしました。前年度と同じく行政や他機関・事業所との連携を通じた支援が増えた。
d	事業の評価の結果は、次期計画に反映している。	5	今年度も総会で受けた評価をもとに事業計画の見直しをしながら次期計画に反映している。 総会で高い評価を受けた、他機関・事業所との繋がりを強化することを継続して行い、計画相談と委託の相談が増えていく中内部の連携（書類のチェックや作成・担当がいなくても対応できるよう）も行っていけるように反映しました。	4	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2 適切な相談支援の実施		昨年度		今年度	
1-2-① 自己決定の尊重		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	必要な情報を理解できるように提供するとともに、体験、経験する機会を設けるなど利用者が主体的に自己決定するための条件整備に努めている。	4	利用者に合わせた方法、本人ペースで対応し、絵や写真などを活用した説明資料を作成している。又、本人のエンパワーメントを高めるために、まず本人さんがしたいことを確認しながら取り組む様になっている。繋がり作りも継続した相談が成立する条件となる為、レクリエーションとしてケーキ作りや、花見・遠足・旅行・クリスマスライブに参加してもらっている。	5	本人のエンパワーメントを高めるために、まず本人さんがしたいことを確認しながら取り組む様になっている。繋がり作りも継続した相談が成立する条件となる為、レクリエーションとしてケーキ作りや、花見・遠足・旅行・クリスマスライブに参加してもらっている。
b	障がいに応じたコミュニケーション手段を保障している。	4	前年度で手話に対しての対応が不十分の評価していたが、聴覚障がいの方の対応する機会が徐々に増えてきたので、不慣れながらも手話や筆談でコミュニケーションを取っている。 手話や指文字の勉強を継続して役立てていきたい。	3	聴覚障害者のみならず、アイコンタクトや文字盤使用など、各々のコミュニケーションの方法を尊重している。 筆談や言語障害者の発言権も大切にしたい。
1-2-② エンパワーメントの重視		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者のエンパワーメントが図られるよう努めている。	4	ピアカウンセリングにより相談者の心の整理や問題点の気づきを促していく。繋がり作りの視点から、年に数回、体験交流会（レクリエーション）参加を通して、ご本人のQOLを高めてもらっている。	4	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-③ コミュニケーションに関する配慮		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	意思伝達に制限のある人の場合、手話や点字、筆談、映像を利用するなど、その人に合った個別のコミュニケーション手段を検討し、それに基づく対応を行っている。	5	聴覚障がい者の方からの相談も増えてきており、不慣れながらも手話と筆談を通して対応を行っている。	3	不慣れながらも手話と筆談を通して対応を行っている。
			個別のコミュニケーションは様々だが、本人さんの気持ちの理解や相談者の気持ちをうまく伝えて行くよう努力したい。		
	b	一度の面接では意思確認等が困難であるような、著しく意思伝達に制限のある人の場合、日常的な関わりを通じて、その人固有のコミュニケーション手段やサインの発見と確認を心がけている。	5	本人が落ち着く場を作り、何回も相談の場を設けている。必要なら相談者のキーパソン（家族・事業所の方）となられる方もお呼びして、その方の固有なコミュニケーション手段やサインの発見と確認に心がけている。	4
c	意思伝達に制限のある人の場合、他機関職員との連携や、本人が信頼できる知人、代弁者、手話通訳者等を受け入れるなど、コミュニケーションを行う環境に配慮して、その人の意思や希望をできるだけ正しく理解しようと努力している。	5	本人が以前に関わってきた事業所の担当者や他機関職員と本人も交え会議を行い、その利用者の意思や希望を正しく理解しようと努力している。	4	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-④ 権利擁護		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者の立場を擁護し、ニーズ表明を支援・代弁することにより、問題解決力や様々な支援を活用する力を高めているような支援に努めている。	4	ピアカウンセリングによって本人の心の整理や問題点の気づきを援助したり、ロールプレイを活用して表現する力を引き出せるような支援に取り組んでいる。	4	ピアカウンセリングによって本人の心の整理や問題点の気づきを援助したり、ニーズ表明の支援を心がけている。
					エンパワメントを高められるよう、支援に努めていく。
b	人権侵害が発生した場合にはその解決のために積極的に対処している。	2	今のところ、そういう事が起こっていないが関係機関の連絡先を把握している。	3	日常の当事者及び関係機関との関係の中で、相談支援センターの役割とし伝達している。それ以外の周知及び発見機能の開発は今後の課題である。
			もし、そういう事が発生した場合は、相談者からの訴えを把握しつつ事実確認を行い、必要に応じて関係機関に働きかける。		
c	虐待が危惧される場合は、関係行政機関と連携し適切な対応を行っている。	4	虐待と思われるケースは、すぐに浪速区役所の担当者に連絡をしている。高齢者・障がい者虐待防止連絡会議に参加し情報収集や関係機関との連携強化を図っている。	4	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3 地域・他機関との交流・連携		昨年度		今年度	
1-3-① 他の関係機関との連携		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	担当区域の地域自立支援協議会に積極的に参加し、様々な取組を提案するなど、協議会の活性化に努めている。	5	浪速区役所の担当者の方と事前に話し合いの場を設け会議の内容を決め参加していた。地域の取り組み、行事等に参加して聴いた地域の方や自治会の方の声を協議会に反映し、活性化に努めた。	3	今年度より担当者が変わったが、引き続き、協議会の中で積極的に意見、問題提起を行い、議論の活性化を図った。新しい事務局との事前の打ち合わせが充分ではなかったため、次年度は改善していく方針を確認した。
b	協働する関係機関や関係団体等が増え、連携が深まっている。	5	各機関が行っている定例会議（自立支援協議会・浪速区施設連絡会）や行事など必ず参加し、今回は防災訓練などを通して各関係機関との連携が深まった。 今後も各関係機関との交流の場をふやしていきたい。	4	各機関が行っている定例会議（自立支援協議会・浪速区施設連絡会・支援センター連絡会）や行事など必ず参加し、連携に努めている。
1-3-② 地域の障がい者の状況把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談者に限らず、地域の障がい者を取り巻く状況や課題はおおむね把握できている。	4	関係機関・事業所等の情報を通して把握している。 支援者とのつながりはあっても、地域とのつながりは弱いので、地域とのつながりを強化していきたい。	4	支援者とのつながりはあっても、地域とのつながりは弱いので、引き続き地域とのつながりを強化していく。
b	障がい者支援機関のみならず地域の福祉・労働・教育・保健医療機関と定期的な会議を開催する等によって、ニーズの把握に努めている。	4	自立支援協議会などで、各機関の情報を把握し、共有に努めている。また新たに年度末に地域の事業所連絡会、各事業所に働きかけ「障がいヘルパー事業所部会」を3か月ごとに開催していくことになった。	4	昨年度末よりスタートした「障がいヘルパー事業所部会」を三か月ごとに開催した。班ごとに分かれて、各参加事業所の問題意識に即して、テーマを決めグループワークを行い討論を行った。また相談支援事業所としても、その役割を説明することや疑問に対して答え、理解して頂くよう努めた。

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
c	アウトリーチ活動に取り組むことにより、ニーズの把握に努めている。	4	地域の町内会の行事に参加したり、居宅事業所・施設などの訪問を行い相談支援センターの認知度を高め、関係づくりや課題把握に努めている。	4	
1-3-③ 地域の社会資源の把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	サービス提供事業所や専門相談機関を把握している。	5	計画相談が増える中、サービス提供事業所や専門相談の方と利用者を通して知り合う機会が多くなり把握している。また地域の会合やイベントの時を活かして、地域の事業者・関係者やへのあいさつや情報交換、情報収集に努めた。	4	
b	学校園・ハローワークなど関連機関の情報を収集している。	4	ハローワーク等が実施する各種職業訓練等の情報が随時送られてくる。またつながりのある各機関問い合わせ依頼をして、訓練プログラム、予定等を頂いている。その情報を白板などに張り付けている。	4	25年度に続きハローワーク等が実施する各種職業訓練等の情報が随時送られてくる。またつながりのある各機関問い合わせ依頼をして、訓練プログラム、予定等を頂いている。その情報を白板などに張り付けている。新しい情報収集の在り方について議論し、模索した。
c	民生委員、地域ネットワーク委員、ボランティア団体などを把握している。	5	一般の相談や計画相談の中で、利用者さんの相談で電話や訪問する機会があり連携がとれており把握している。	4	一般の相談や計画相談の中で、電話や訪問する機会もあり、連携をめざし把握するよう努めている。
			担当者が変わっても同じ連携が出来るよう努めていきたい。		
d	駅や図書館、スポーツセンターなどの公共施設や、金融機関や飲食店、商店などの民間施設、障がい者用トイレやエレベーター等の設備の情報を収集している。	4	情報を収集しながら実際に現場に行き行ってチェックしたり、飲食店などにバリアフリーかどうか電話でチェックしている。またインターネットで調べて相談者に情報提供している。	4	相談、問い合わせ時、情報提供している。JRを中心に駅のバリアフリー情報を通信に掲載。
					最新の情報を提供していけるよう、ネット等を活用し、情報収集に努めていく。

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名	浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容
1-3-④ 社会資源の改善・開発に向けた取り組み	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点 評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a 既存のサービスの活用だけでなく、既存の社会資源の「改善」や新たな社会資源の「開発」に向けて取り組んだ。	1	「改善」や「開発」を心がけたが、充分に取り組めたとはいえない状況であった。その為の時間を作って、取り組んでいくことを確認した。	3 業務の整理（役割分担・優先順位の見直し等）を行い、各相談員が「改善」・「開発」に充てる時間を創るよう心がけた。「改善」・「開発」のための研究・検討をしているが、明確な成果を出すに至っていない。次年度も引き続き、業務の見直し・整理を行っていく方針を確認している。
1-3-⑤ 支援困難事例への積極的な対応	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点 評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a 多問題を抱えた事例や、問題が長期にわたって継続し、解決の糸口を見つけないことが困難な事例など支援困難事例への対応を積極的に行っている。	5	困難事例の対応を積極的に行っている、また皆で情報を共有し誰でも対応できるよう努めている。後、他区が断ったケースも引き受けることがある。	5 福祉サービスの利用援助が増えていく中で、困難事例がみられる状況がある。25年度から26年度にかけて委託として継続していた困難事例は8件。
1-3-⑥ 地域住民への周知・啓発的活動の実施	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点 評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a 障がい者相談支援センターは、自らの役割について地域住民に対して積極的な周知を図っている。	5	地域の清掃や自治会などの会議などに参加したり、イベントがある時は毎回近くの飲食店やコンビニにチラシやポスターを張ってもらっている。 継続して地域の行事やイベントに参加した。またその中で相談支援の取り組みを積極的に周知した。	4 前年度同様、地域の行事やイベントに参加して、周知に努めた。また新たに「障がいヘルパー事業所部会」の中で周知を行った。
b 地域住民との交流や講演会の開催等を通じて、障がい者が地域で共に生きていく意義をはじめ、啓発的活動に積極的に取り組んでいる。	5	毎年行っているイベント（花見・収穫祭・クリスマス会）も含め、自立支援協議会主催で防災訓練を行い地域の方と障がい者の方が一緒に訓練する機会を設けました。	4

事業所名	浪速区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1-4 その他の取組み	昨年度	今年度
	<p>(取組内容)継続的なレクリエーションの実施(参加者数は障がい者・健常者の合計数) ① お花見(4月・約100名)収穫祭(バーベキュー)(10月・約80名)②宿泊レクリエーション 沖縄旅行(6月・16名)③クリスマスライブ(12月ピース大阪) 今年はお花見の準備に参加する利用者の方が多く、おにぎりを作る作業や配膳するお手伝いをしてくれ、社会生活を養う経験も得られとても良かった。計画相談支援対象者の方や他区の事業所などの参加もあり新たな交流の場を設ける事ができ、毎年来られてる利用者の方より「いつもより楽しかった」「来年もお手伝いしたい」という言葉を頂いた。後、宿泊レクリエーションでは沖縄に行き、初の飛行機での移動となった。車いすでの参加者が4名いたので、航空会社の方と一緒に飛行機内での移動・移乗を共同作業で行いお互いに学びあう機会ができた。沖縄には2泊3日の滞在であったが、どこに行っても大阪では滅多に経験のできない沖縄の人のナチュラルサポート(声を掛けなくても、見かけただけで自発的に助けてくれる行動)を受けることによって、車いすでも楽しい旅行ができた。この旅行の経験で、車いすでも飛行機旅行ができるという自信がついて、自分で計画を立て飛行機で旅行に行くかたもおられた。クリスマスイベントでは、毎年様々なゲストを呼び歌や芸を楽しむ機会を設けていたが、今回は見る立場であった利用者さんが皆と一緒に歌や芸を披露する場もあり、とても良いクリスマスイベントになった。今年度はイベントを通して、いろんな人との触れ合う場やエンパワーメントを高める経験が多かった。</p>	<p>(取組内容)特徴として、困難事例の当事者の福祉サービスの利用援助を継続的に取り組んだこと(内容として、・自己管理・金銭管理・障害受容・家族の過干渉・家族との共依存・育児困難等々)。また25年度末より自立支援協議会の中で障がいヘルパー部会を事務局と共に構想し、立ち上げた。これは介護保険を主とするヘルパー事業所側の障がいの制度や実情についての理解のむずかしさを感じていることや行政側の何がわからないのかを知りたい、正しい情報がお互いに交換することによって、各事業所の課題を改善し、そのことによって、浪速区全体の障害者福祉サービスの円滑化、向上に資することを目的として昨年度を通して行った。また精神の当事者の方に対して継続的にピアカウンセリングを行い、本人のエンパワーメントを高め、次年度へのステップアップ(就労継続への通所)につなげることが出来た。 またそのほかにエンパワーメントを目的として継続的なレクリエーションを相談支援センターが中心となって企画し実施(参加者数は障がい者・健常者の合計数)① お花見(4月・約80名)収穫祭(バーベキュー)(10月・約80名)②「近場でGO！」レクリエーション・いちご狩り(5月・34名)・海遊館(9月・28名)③クリスマスライブ(12月・浪速区民センター・約50名) 今年はお花見の準備に参加する利用者の方が多く、おにぎりを作る作業や配膳するお手伝いをしてくれ、社会生活を養う経験も得られとても良かった。計画相談支援対象者の方や他区の事業所などの参加もあり新たな交流の場を設ける事ができ、毎年来られてる利用者の方より「いつもより楽しかった」「来年もお手伝いしたい」という言葉を頂いた。クリスマスイベントでは、毎年様々なゲストを呼び歌や芸を楽しむ機会を設けているが、今回も見る立場の利用者さんが皆と一緒に歌や芸を披露する場もあり、とても良いクリスマスイベントになった。今年度もイベントを通して、いろんな人との触れ合う場やエンパワーメントを高める経験が多かった。</p>

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター										変更又は改善内容									
2 日々の相談支援業務		平成25年度										平成26年度									
2-1 継続支援対象者数																					
①継続的な委託相談支援を行った実人数（指定相談支援を除く）		障がい種別		前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	障がい種別		前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数				
身体障がい	視覚	2	0	0	2	2	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	2				
	聴覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	肢体	13	0	1	12	12	0	0	12	0	0	0	12	0	0	0	12				
	内部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	計	15	0	1	14	14	0	0	14	0	0	0	14	0	0	0	14				
	知的障がい	2	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2				
	精神障がい	3	0	0	3	3	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	3				
	障がい児	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1				
	重複障がい	6	0	0	6	6	0	0	6	0	0	0	6	0	0	0	6				
	難病・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
合計	27	0	1	26	26	0	0	26	0	0	0	26	0	0	0	26					
②指定特定相談支援を実施した実人数		身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい等	計	身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい等	計	身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい等	計					
		39人	8人	26人	3人	76人	57人	13人	67人	14人	151人										
2-2 相談支援内容		平成25年度										平成26年度									
①延べ相談件数		身体障がい					知的障がい	精神障がい	重複障がい	その他	計	身体障がい					知的障がい	精神障がい	重複障がい	それ以外	計
		視覚	聴覚	肢体	内部	計						視覚	聴覚	肢体	内部	計					
福祉サービスの利用援助		1	3	22	2	28	8	6	1	8	51	1	3	20	1	25	6	7	2	8	48
うち、継続的な支援対象者の件数		0	0	10	0	10	2	2	0	4	18	0	0	10	0	10	2	2	1	4	19
社会資源を活用するための支援		4	3	31	0	38	25	10	6	6	85	4	3	29	0	36	28	12	7	8	91
うち、継続的な支援対象者の件数		0	2	13	0	15	3	1	1	0	20	0	2	13	0	15	3	1	1	0	20
社会性活力を高めるための支援		3	0	37	0	40	19	7	8	113	187	3	0	37	0	40	19	9	8	113	189
うち、継続的な支援対象者の件数		1	0	10	0	11	0	3	8	0	22	1	0	10	0	11	0	3	8	0	22
ピアカウンセリング		0	0	5	0	5	6	907	3	1	922	0	0	5	0	5	6	894	2	1	908
うち、継続的な支援対象者の件数		0	0	0	0	0	1	876	3	0	880	0	0	0	0	0	1	863	2	0	866
権利擁護のために必要な援助		0	0	3	0	3	1	2	0	0	6	0	0	3	0	3	1	2	0	0	6
うち、継続的な支援対象者の件数		0	0	2	0	2	1	0	0	0	3	0	0	2	0	2	1	0	0	0	3
専門機関の紹介		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち、継続的な支援対象者の件数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	2	0	0	2	1	8	6	8	25	0	2	0	0	2	1	8	6	8	25
うち、継続的な支援対象者の件数		0	0	0	0	0	0	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5
合計		8	8	98	2	116	60	940	24	136	1276	8	8	94	1	111	61	932	25	138	1267
うち、継続的な支援対象者の件数		1	2	35	0	38	7	887	12	4	948	1	2	35	0	38	7	874	12	4	935
②相談の実施方法		来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計	来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計	来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計					
		1,122	85件	26件	14件	1247件	1109件	85件	31件	14件	1239件										

事業所名	浪速区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
2-3 日々の相談件数の分析	平成25年度	平成26年度
	<p>前年度に比べ、一般の相談の方では継続的な支援者数が増えており障がい種別で見ると精神の方の相談が多くなっている。主にピアカウンセリングで、内容としてはヘルパー事業所さんとのトラブルや人間関係・将来の自分の人生・就労の事である。前年度に比べ、ほかの障がいの方の相談が減少している。その理由は他区からの相談が多かった為、相談者の居住区内で相談できるように各区の相談機関に繋げていった為である。新たに聴覚障がいの方からの相談もあり手話や筆談で相談の対応する機会も増えた。相談の方法も来所が多くなっており、役所や他事業所などの紹介・パンフレットを見て相談に来られるケースが増えている。上記にあったように他区からの相談も相変わらず増えているが、計画相談の対応に追われる日々が続いており場合によっては同区の相談機関に繋げる様になっている。</p> <p>今年度も計画相談支援の件数も増えており、新規・更新・モニタリングも含めかなりの数となっている。今年度は障がい種別で見ると、身体の方が増えている。サービス付き高齢者マンションに在宅されている方が半数近くいるためサービスにも繋げやすい状態である。新規のヘルパー探しでもヘルパー事業所との関係が出来てきた為、すぐに利用者の方にサービスを受けてもらえるようになった。サービス利用計画を作成してサービスに繋げても、その後の支援が大変で特に精神の方の対応に時間がかかっている。全体を通して前年度と同じ計画相談支援の方で動きがメインとなっている状況である。</p>	<p>前年度に比べ、一般の相談の方では継続的な支援者数が増えており、障がい種別で見ると精神の方の相談が多くなっている。主にピアカウンセリングで、内容はヘルパー事業所さんとのトラブルや人間関係、将来の自分の人生、就労の事である。障がい全般では、親子関係の相談もあった。</p> <p>また、住宅探し、年金手続き、生活保護手続き等、一人ひとりに時間をかけて、相談に乗ることによって、相談者が思い描く生活ができるよう、本当に困っていることを聞き出し、支援を行っている。</p> <p>他区からの相談が多かった為、相談者の居住区内で相談できるよう、各区の相談機関につなげている。</p> <p>計画相談支援の件数も増え、役所や事業所の紹介、パンフレットを見て、相談に来られる方も増えている。支援において、サービス付き高齢者マンションに在宅されている方は、サービスにもつながりやすく、ヘルパー事業所との関係ができ、スムーズに利用者の方にサービスを受けてもらえるようになった。</p> <p>計画相談事業所がスタート時よりも増え、また、新規受け入れの調整を図り、支援を必要としている人の話をゆっくり聞き、丁寧な対応を心がけることができている。</p>

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター						変更又は改善内容					
2-4 住宅入居等支援事業の実施状況		平成25年度						平成26年度					
①実施状況		入居斡旋件数		登録者数		緊急対応件数		入居斡旋件数		登録者数		緊急対応件数	
	身体障がい	0 件		0 件		0 件		0 件		0 件		0 件	
	知的障がい	0 件		0 件		0 件		0 件		0 件		0 件	
	精神障がい	0 件		0 件		0 件		0 件		0 件		0 件	
	重複障がい	0 件		0 件		0 件		0 件		0 件		0 件	
	難病・その他	0 件		0 件		0 件		0 件		0 件		0 件	
	計	0 件		0 人		0 件		0 件		0 人		0 件	
②緊急対応の内訳		時間帯別			平日・休日別			時間帯別			平日・休日別		
	夜間出動	0 件			休日出動			0 件			休日出動		
	日中出動	0 件			平日出動			0 件			平日出動		
	合計	0 件			合計			0 件			合計		
		出動要請者			出動内容			出動要請者			出動内容		
	本人	0 件			病気・けが等の発生			0 件			病気・けが等の発生		
	家主	0 件			精神症状の悪化			0 件			精神症状の悪化		
	近隣	0 件			日常生活上のアクシデント			0 件			日常生活上のアクシデント		
	警察・消防	0 件			家事・災害等			0 件			家事・災害等		
	医療機関	0 件			近隣からのクレーム			0 件			近隣からのクレーム		
	その他	0 件			その他			0 件			その他		
2-5 業務委託料の収支精算について		平成25年度						平成26年度					
①歳入		金額						金額					
	科目	内 訳						内 訳					
	業務委託料	13,232,000 円						13,232,000 円					
	預金利子												
	その他												
	合計	13,232,000 円						13,232,000 円					
②歳出		平成25年度						平成26年度					
	科目	金額						金額					
	人件費	8,635,200 円						8,522,895 円					
	常勤職員人件費	6,835,200 円						6,584,720 円					
	非常勤職員人件費	1,080,000 円						1,260,000 円					
	その他	720,000 円						678,175 円					
	物件費	4,596,800 円						4,709,105 円					
	報酬	762,000 円						762,000 円					
	賃金												
	報償費												
	消耗品費	201,570 円						197,726 円					
	印刷製本費	50,000 円											
	光熱水費	384,000 円						394,000 円					
	通信運搬費	120,000 円						10,274 円					
	手数料	1,680 円						642 円					
	筆耕翻訳料												
	使用料	180,000 円						172,800 円					
	不動産賃借料	2,400,000 円						2,400,000 円					
	備品購入費	66,130 円											
	その他	431,420 円						771,663 円					
	合計	13,232,000 円						13,232,000 円					

事業所名	浪速区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
3 区における地域課題について		
区における全般的な課題についての現状認識及びその解決・改善に向けた提案・提言など	昨 年 度	今 年 度
	浪速区では障がい者に関する社会資源が少なすぎる、例えば日中活動の場（生活介護）やグループホーム。問い合わせがある度に他区や大阪府内の情報提供の対応になる。	浪速区では、①障がい者に関する社会資源が少なすぎる、例えば日中活動の場（生活介護）、入浴サービスが受けれる場、バリアフリー住宅がほとんどない。②事業所の入れ替わりが激しい。以上の課題の解決のための提言として、短期的には近隣区（他区）の相談支援センターと連携して、近隣区の余裕のある社会資源の力を借りて対応する。長期的には区の自立支援協議会で上記課題について調査を行い、ニーズと社会資源の数字のギャップを明らかにする。そして市の自立支援協議会に現状を報告し、市全体（各区）の社会資源の偏在状況を集約して頂き、協議会が市と共に考えていく。

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4 自己評価を終えて		昨 年 度	今 年 度
4-1 区地域自立支援協議会での報告			
	報告日	2014年11月26日(水曜日)	2015年11月18日(水曜日)
	出席者からの意見	なし	昨年度と今年度の改善点はなにか？ イベントに参加している利用者の層は？ 計画相談と混在した報告になっているのではないか。 単年度の計画はあるが、中長期の計画がもっと必要ではないか。
	0 相談支援事業所の概要	特記なし	
	1 事業運営全般	特記なし	
	2 日々の相談支援業務	特記なし	

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
	3 区における地域課題について	特記なし	

事業所名	浪速区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4-2 一連の自己評価のプロセスを終えて	昨 年 度	今 年 度
	<p>今年度は、前年度のデータもあったので評価しやすかった。前年度と比べて障がい種別の幅も広がったり、各関係機関や事業所などの関係が深まり連携も取れてきた。そのおかげで地域の方との繋がりも徐々にできてきており評価が上がってきている。でも、まだまだ評価が低いままのものもあり、自分たちの弱さを知る所である。評価が上がってるものに対して下がらないよう、評価に変更のないままのものに対して上がるよう頑張っていきたい。</p>	